

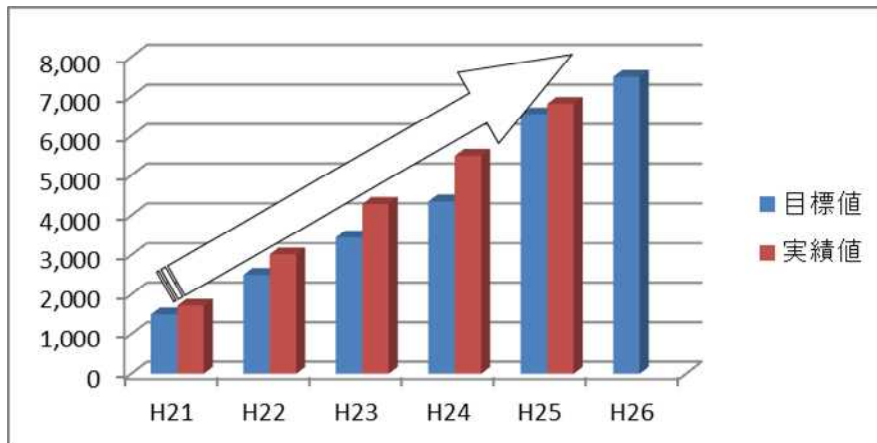
平成26年度実施施策に係る事前分析表

(文部科学省 26-9-8)

施策名	新興・融合領域の研究開発の推進
施策の概要	幅広い応用可能性を有する新たな先端的融合領域を積極的に発掘し推進することにより、わが国の科学技術・学術の高度化・多様化、ひいては社会ニーズへの対応と経済社会の発展を図る。

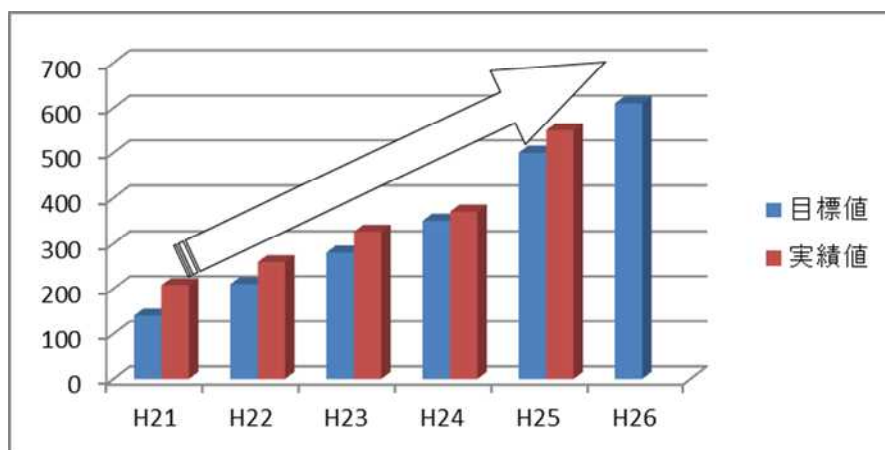
達成目標 1	光・量子科学技術分野のシーズと各分野産業界のニーズを結合させるため、光科学技術と量子ビーム技術の融合連携した先導的利用研究による成果創出や世界をリードする最先端光源や計測技術の開発が行われる。						
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	一年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	毎年度
① 成果の活用状況	—	—	中間評価 (※)を実施	—	—	活用事例	事業を通じて開発された技術を活用した、社会のニーズに対応する研究成果の創出
年度ごとの目標値	—	事業を通じて開発された技術を活用した、社会のニーズに対応する研究成果の創出	事業を通じて開発された技術を活用した、社会のニーズに対応する研究成果の創出	事業を通じて開発された技術を活用した、社会のニーズに対応する研究成果の創出	事業を通じて開発された技術を活用した、社会のニーズに対応する研究成果の創出	事業を通じて開発された技術を活用した、社会のニーズに対応する研究成果の創出	—
活動指標 (アウトプット)	基準値	実績値					目標値
	25年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
② 事業を通じた研究成果の学会等発表・論文等掲載数(累計)	6,816件	1,719件	3,023件	4,286件	5,495件	6,795件	7,800件
年度ごとの目標値	—	1,500件	2,500件	3,450件	4,350件	6,550件	—

※中間評価：課題毎の進捗・達成状況を把握し、その後の課題の方向性や継続の可否について検討を行う。
【グラフ：活動指標②事業を通じた研究成果の学会等発表・論文等掲載数(累計)】



達成目標 2	ネットワーク型の研究拠点の構築等を通じて、次世代の光・量子科学技術を担う若手人材が育成される。						
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	25年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① 本事業に参加している若手人材による、事業を通じた研究成果の論文等掲載数(累計)	601件	142件	257件	303件	413件	598件	690件
年度ごとの目標値		130件	220件	300件	360件	490件	
活動指標 (アウトプット)	基準値	実績値					目標値
	25年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
② 若手人材の事業参加者数(累計)	550名	208名	259名	326名	370名	550名	630名
年度ごとの目標値		140名	210名	280名	350名	500名	

【グラフ：活動指標②若手人材の事業参加者数(累計)】



達成目標 3	数学・数理科学研究者と諸科学・産業における研究者とが議論する場を形成し、両者の協働作業により課題(ニーズ)を発掘し、研究テーマの抽出につなげる。						
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値
	25年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	27年度
① 諸科学・産業の課題に対する数理的手法を活用した解決方法提案件数(累計)	5	-	-	-	-	5	20
年度ごとの目標値		-	-	-	-	5	
活動指標 (アウトプット)	基準値	実績値					目標値
	25年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	27年度
② 研究集会等を実施する件数(累計)	45	-	-	22	45	45	120
年度ごとの目標値		-	-	-	20	40	

【目標・指標の設定根拠等】

成果指標：諸科学・産業の課題に対し数理的解決方法の提案を行うことは諸科学・産業と数学・数理学の協働により課題の発掘、研究テーマの抽出、検討及び進展が確認できるため。

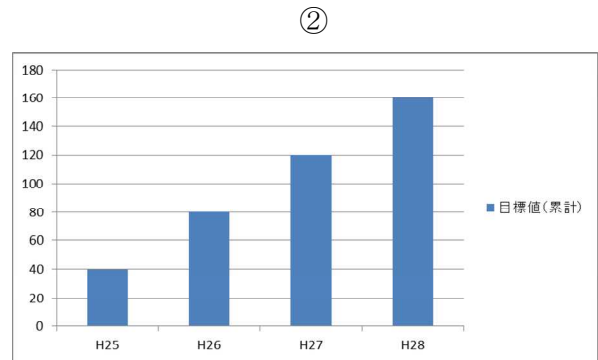
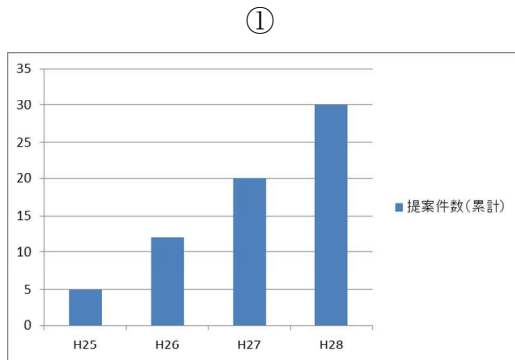
成果目標：上記に記載した内容まで至るには集中的に討議する研究集会（スタディグループ）が有効な手段となる。これらは毎年度 10 件程度の実施を目指しており、実施主体である委託事業が終了する 28 年度には全てのスタディグループにおいて進展が見込め、累計 30 件を目指しており、27 年度時点の目標として累計 20 件とする。

活動指標：短期的な議論により課題の発掘、研究テーマの抽出をする研究集会（ワークショップ）、抽出された課題を集中的に議論し数理的手法による解決方法の提案を目指すスタディグループ、議論に当たり必要となる数理的知識を提供する入門的研究集会（チュートリアル）等は全て成果指標に結びつく活動となるため、これらの実施累計数を活動指標とする。

活動目標：活動指標における研究集会等の各年の回数を増やすことは目標とせず、内容の工夫に努めることとする。そのため活動目標は累計数とする。

【施策・指標に関するグラフ・図など】

- 【①成果指標：諸科学・産業の課題に対する数理的手法を活用した解決方法提案件数（累計）】
- 【②活動指標：研究集会等を実施する件数（累計）】



達成手段

(事業・税制措置・諸会議等)

(単位：百万円)

名称 (開始年度)	予算額計 (執行額)		当初 予算額	事業概要	関連 する 指標	行政事業 レビュー シート番号	担当課
	24年度	25年度	26年度				
光・量子科学研究拠点形成に向けた基盤技術開発 (平成 20 年度)	1,316 (1,314)	1,657 (1,655)	1,444	光・量子ビーム技術と他分野のニーズを結合させ、産学官の多様な研究者が連携・融合するための研究・人材育成拠点を形成し、新たな基盤技術開発と利用研究を推進する。	1- ①、 ②、 2- ①、 ②	0307	研究開発 基盤課
数学・数理学と諸科学・産業との協働によるイノベーション創出のための研究促進プログラム (平成 24 年度)	20 (14)	48 (45)	42	数学・数理科学的知見を活用して諸科学や産業における様々な課題の解決に貢献し、新たな価値(数学イノベーション)を生み出す枠組みを構築するため、数学・数理学研究者と諸科学・産業における研究者とが議論する場を形成し、両者の協働作業により課題(ニーズ)の発掘から、研究テーマの抽出や研究への発展支援を行う。	3- ①、 ②	0309	基礎研究 振興課
先端基盤技術研究開発推進経費 (平成 23 年度)	35.9 (29.5)	30.5 (21)	12.9	様々な分野の研究開発に活用される基盤技術に関する研究推進方策や、研究基盤施設の整備・運営等について、検討会や動向調査を通じ	2	308	研究開発 基盤課

				て、今後の施策の在り方の検討及び推進を図る。			
文部科学省数学・数理科学と諸科学・産業との連携研究ワークショップ	—	—	—	—	3-①、②	—	基礎研究振興課

(参考) 関連する独立行政法人の事業

事業名 (開始年度)	予算額計 (執行額)		当初 予算額	事業概要	関連 する 指標	行政事業 レビュー シート番号	担当課
	24年度	25年度	26年度				
独立行政法人理化学研究所運営費交付金に必要な経費	<57,512>の内数 (<57,512>の内数)	<55,330>の内数 (<55,330>の内数)	<53,119>の内数	理化学研究所は、我が国における最大規模かつ最高水準の自然科学全般に関する総合的研究機関として、科学技術による政策課題の解決に迅速かつ継続的に貢献する必要がある。そのため、将来の国家戦略を先導する新分野の開拓に向けた先端的・融合的基礎研究を実施し、その成果を研究所内外へ展開・発展させるとともに、最先端研究を支える最先端研究基盤の開発・高度化を行う。	新興・融合領域の研究開発の推進	0193	基礎研究振興課
独立行政法人理化学研究所施設整備に必要な経費	<9,363>の内数 (<422>の内数)	<370>の内数 (<4,483>の内数)	<227>の内数	理化学研究所の設置する研究所施設の整備充実を図るため、研究所が行う研究所施設の整備に要する経費に対し補助を受け、もって科学技術に関する試験及び研究等の業務を総合的に行うことにより、科学技術の水準の向上を図ることを目的とする。	新興・融合領域の研究開発の推進	0194	基礎研究振興課
独立行政法人科学技術振興機構運営費交付金に必要な経費 「戦略的創造研究推進事業」	<54,544> (54,544)	<62,548> (62,548)	<60,232>	社会的・経済的ニーズ等を踏まえ、トップダウンで定めた方針の下、組織の枠を超えた時限的な研究体制（バーチャル・ネットワーク型研究所）を構築し、我が国の重要課題の達成等に貢献する新技術の創出に向けた研究開発を推進する。	新興・融合領域の研究開発の推進	0186	基礎研究振興課 人材政策課 環境エネルギー課

施策の予算額・執行額					
(※政策評価調書に記載する予算額)					
区分		24年度	25年度	26年度	27年度要求額
予算の状況 (千円) 上段：単独施策に係る予算 下段：複数施策に係る予算	当初予算	1,372,076 ほか復興庁一括 計上分0	1,735,441 ほか復興庁一括 計上分0	1,498,408 ほか復興庁一括 計上分0	1,808,408 ほか復興庁一括 計上分0
		<58,166,117> ほか復興庁一括 計上分 <4,383,269>	<55,699,951> ほか復興庁一括 計上分<0>	<53,345,591> ほか復興庁一括 計上分<0>	<52,828,448> ほか復興庁一括 計上分<0>
	繰越し等	95,331 ほか復興庁一括 計上分0	371,011 ほか復興庁一括 計上分0	0	
		<8,708,513> ほか復興庁一括 計上分<0>	<2,621,543> ほか復興庁一括 計上分<0>	<0>	
合計	Δ96,000 ほか復興庁一括 計上分0	Δ275,264 ほか復興庁一括 計上分0			
		<Δ8,849,323> ほか復興庁一括 計上分<0>	<1,580,077> ほか復興庁一括 計上分<0>		
		1,371,407 ほか復興庁一括 計上分0	1,831,188 ほか復興庁一括 計上分0		

		<58,025,307> ほか復興庁一括 計上分<0>	<59,901,571> ほか復興庁一括 計上分<0>		
執行額（千円）		1,357,268 ほか復興庁一括 計上分 0	1,819,877 ほか復興庁一括 計上分 0		
		<57,939,725> ほか復興庁一括 計上分<0>	<59,901,571> ほか復興庁一括 計上分<0>		

施策に関する内閣の重要政策（施政方針演説等のうち主なもの）		
名称	年月日	関係部分抜粋
第4期科学技術基本計画	平成23年8月19日	<p>Ⅲ. 我が国が直面する重要課題への対応</p> <p>2. 重要課題達成のための施策の推進</p> <p>(5) 科学技術の共通基盤の充実、強化</p> <p>我が国及び世界が直面する様々な課題への対応に向けて、科学技術に関する研究開発を効果的、効率的に推進していくためには、複数の領域に横断的に用いられる科学技術の研究開発を推進する必要がある。また、広範かつ多様な研究開発に活用される共通的、基盤的な施設や設備について、より一層の充実、強化を図るとともに、相互のネットワーク化を促進していく必要がある。</p> <p>このため、国として、具体的には以下に掲げる重要課題を設定し、これらに対応した研究開発等の関連施策を重点的に推進する。</p> <p>i) 領域横断的な科学技術の強化</p> <p>先端計測及び解析技術等の発展につながるナノテクノロジーや光・量子科学技術、シミュレーションやe-サイエンス等の高度情報通信技術、数理科学、システム科学技術など、複数領域に横断的に活用することが可能な科学技術や融合領域の科学技術に関する研究開発を推進する。</p> <p>ii) 共通的、基盤的な施設及び設備の高度化、ネットワーク化</p> <p>科学技術に関する広範な研究開発領域や、産学官の多様な研究機関に用いられる共通的、基盤的な施設及び設備に関して、その有効利用、活用を促進するとともに、これらに係る技術の高度化を促進するための研究開発を推進する。</p> <p>また、これらの施設及び設備の相互のネットワーク化を促進し、利便性、相互補完性、緊急時対応等を向上するための取組を進める。</p>
政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報		
<p><達成目標3></p> <p>平成25年度 文部科学省数学・数理科学と諸科学・産業との連携研究ワークショップ開催報告書</p> <p>平成25年度 文部科学省数学・数理科学と諸科学・産業との協働によるイノベーション創出のための研究促進プログラム報告書</p>		

評価実施予定時期	平成27年度・平成29年度
----------	---------------

主管課（課長名）	研究振興局 基礎研究振興課（行松 泰弘）
関係課（課長名）	科学技術・学術政策局 研究開発基盤課（弦本 英一）